

手島精管、品目2割増

工業用パイプなど 新工場稼働で

ステンレスパイプ加工の手島精管(群馬県館林市)は市内に完成した新工場を本格稼働させ、品

目数を拡充する。主力の注射針用パイプに加え、医療機器やパイオ技術製品の部品など工業用のラインアップを強化する。品目数を今後3〜5年で現在の400種類から2割増やす方針だ。取引先業種の裾野を広げること

で安定経営につなげる。同社は館林市内に2カ所の生産拠点を持っていたが、老朽化していた。集約による作業の効率化

も狙い、数億円を投じ、4月に延べ床面積約2800平方メートルの工場を新設した。海外を含む顧客の利便性に配慮し、東北自動車道の館林インターチェンジの近くに構えた。ステンレスの板材を丸

めて溶接し、大小のパイプに加工し出荷する。パイプの内面を滑らかに加

工するのは高度な技術が必要で、血液の解析などに用いる分析機器をはじめ、ニッチ(隙間)の需要が多いという。同社の2012年8月期の売上高は約10億円。多品種少量生産を進め、18年8月期には2割増を目指す。

